

平成29年度 **あきたスマートカレッジ** (報告)  
**連携講座**

**T 1～4 : 発掘！考古ゼミ**  
 会場：T 1～3 秋田県生涯学習センター4階 第1研修室  
 T 4 3階 講堂、地下ホール

【趣旨】県埋蔵文化財センターと連携し、同施設が各遺跡を発掘・調査した結果を通して、秋田の古代ロマンを学習する講座です。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
T 1	11月17日 (金)	米代川流域の埋蔵建物	埋蔵文化財センター 中央調査班副主幹 村上 義直 氏	26
T 2	11月24日 (金)	払田の柵を設計する －『九章算術』との関係－	払田柵跡調査事務所 調査班 副主幹(兼) 班長 宇田川 浩一 氏	37
T 3	12月 1日 (金)	埋蔵文化財の発見と発掘調査	埋蔵文化財センター 中央調査班 主任文化財専門員(兼) 班長 磯村 亨 氏	30
T 4	3月11日 (日)	平成29年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会		231
合計				324名

今年度も引き続き埋蔵文化財センターと連携して、「発掘！考古ゼミ」を開催しました。今年度は払田柵跡発掘調査で、漆紙文書が発見されました。新聞やニュースでも大きく取り上げられたため、受講者は高い関心を持って臨みました。ここでは、その内容を紹介した第2回(T 2)を報告します。

漆紙文書の漆紙とは、落とし蓋の薄紙のことで、文書はその薄紙の接着面に書かれていたものです。その面には防腐作用のある漆が付着、それらがくっついて残ったため、文書も約千年の時を経て読み取れることとなったのです。まさに偶然が重なった産物。その大発見から、たくさんの史実が読み取れます。「秋田城」という名前の初めての確認。払田柵と秋田城が物資のやりとりをしていた証拠。払田柵にも国司がいた事実などが分かりました。受講者は「先月報道された漆紙文書について詳しく知りたかったので、タイムリーな話題で大変勉強になった」等、歴史ロマンの世界を膨らませていたようです。



T3より漆紙文書の出土について